

第1章 策定にあたって

1-1 策定趣旨

平成17年4月1日に須賀川市、長沼町及び岩瀬村が合併し、新しい須賀川市が誕生しました。本市水道事業は、平成17年の合併当時は、須賀川地域、長沼地域及び岩瀬地域がそれぞれ地域水道事業として独立して運営し、勢至堂簡易水道は、地方公営企業法を適用しない簡易水道事業として運営してきましたが、平成20年4月1日に簡易水道事業を除くすべての地域水道事業を統合し、新たな須賀川市水道事業として出発しました。現在は、1つの上水道事業、1つの簡易水道事業が事業運営を行っています。これまでは、給水区域の拡張や給水人口の増加などによる水需要の増加に対応するため、施設整備を中心に事業を実施してきましたが、近年の少子高齢化による人口の減少、長期化する経済不況などによる水需要の低迷、水道水の安全性やおいしさなどのお客さまニーズの多様化、地球規模での環境問題など、水道を取り巻く環境は大きく変化しており、「建設」から「維持管理」への方向転換が必要急務になっています。

このような状況の中で、安全な水道を将来にわたって安定して供給し続けるため、本市の地域水道ビジョンを策定し、本市水道事業の将来像を明らかにするとともに、これを達成する道のりを示します。また、タイトルは計画の目標年度である2020年度を明確に示すため「水道ビジョンすかがわ2020」とします。

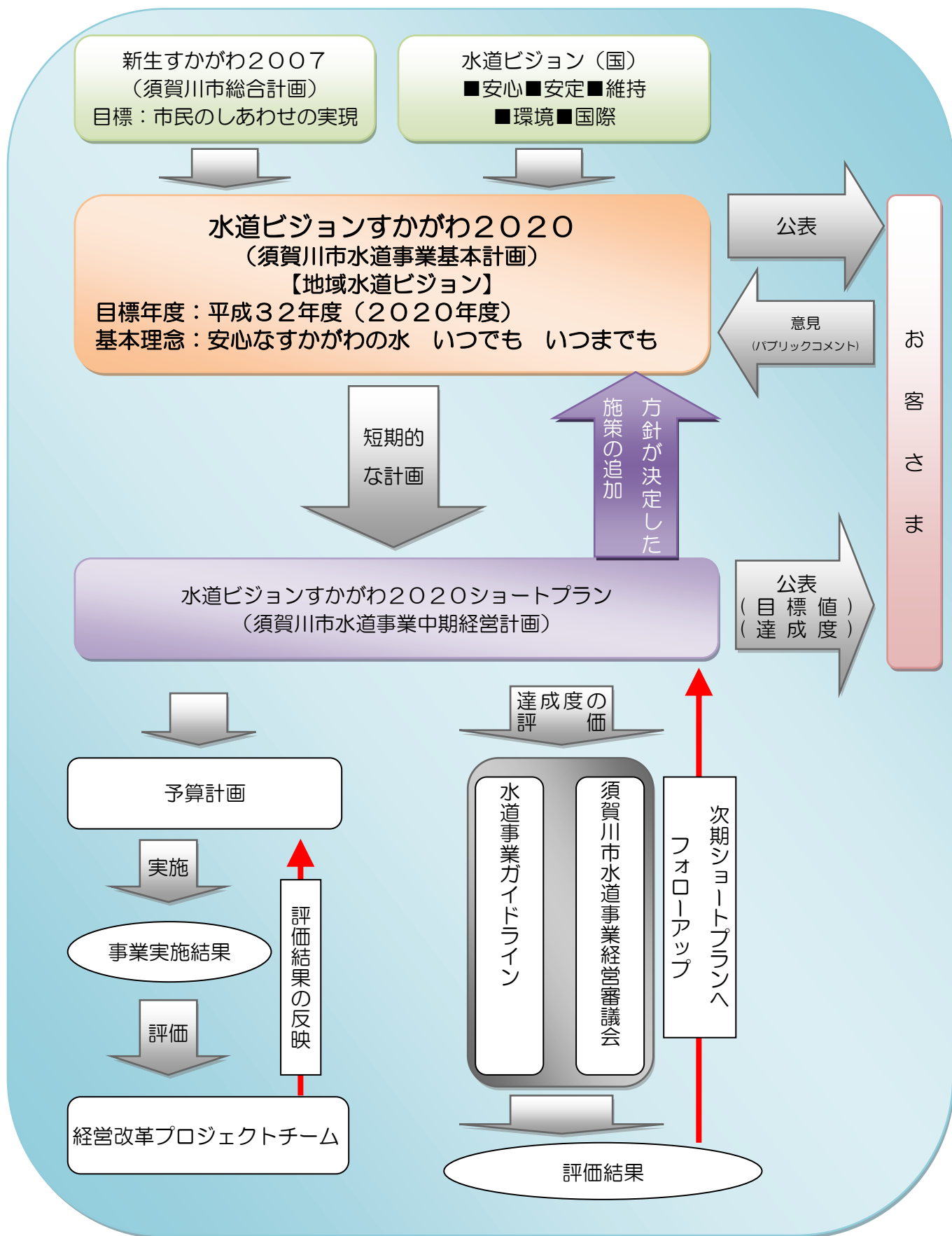
1-2 位置づけ

本市では、平成17年に「新生すかがわ2007」が策定され、「市民のしあわせの実現」を目標にさまざまな取り組みを実施しています。上水道に関しては、上水道の整備は快適な市民生活に不可欠な都市基盤施設であることから、上水道の安定した供給を基本的な方向として定め、各種事業を実施してきました。また、平成16年には、「世界のトップランナーを目指してチャレンジし続ける水道」を基本理念に、「安心」・「安定」・「持続」・「環境」・「国際」を主要政策課題と位置づけた国の「水道ビジョン」が策定され、水道関係者全体で取り組みを実施しています。

「水道ビジョンすかがわ2020」は、本市総合計画である「新生すかがわ2007」と国が定めた「水道ビジョン」を踏まえて、本市水道事業の目指すべき将来像とその実現のための方策などを示す、「地域水道ビジョン」として位置付けるとともに、本市水道事業の基本計画としても位置付けるものです。

また、「水道ビジョンすかがわ2020」の施策の短期的な計画に関しては、「水道ビジョンすかがわ2020ショートプラン」により計画的、効果的な施策の実施を図ります。

水道ビジョンすかがわ2020体系図



1-3 目標年度

「水道ビジョンすかがわ2020」は、本市水道事業が目指すべき将来像を描くとともに、その実現のための方策などを示しています。本市水道事業が目指すべき将来像は、国の「水道ビジョン」を踏まえ、21世紀半ばごろを設定します。また、目指すべき将来像実現のための方策の目標年度は、平成32年度（2020年度）とします。なお、施設の改修など平成32年度以内には終了しない事業や平成32年度以降に実施を予定している事業もあることから、その先の10年間（平成42年度 2030年）までを見据えた計画とします。

目指すべき将来像

21世紀半ばごろ

目標期間

平成32年度
(2020年度)

